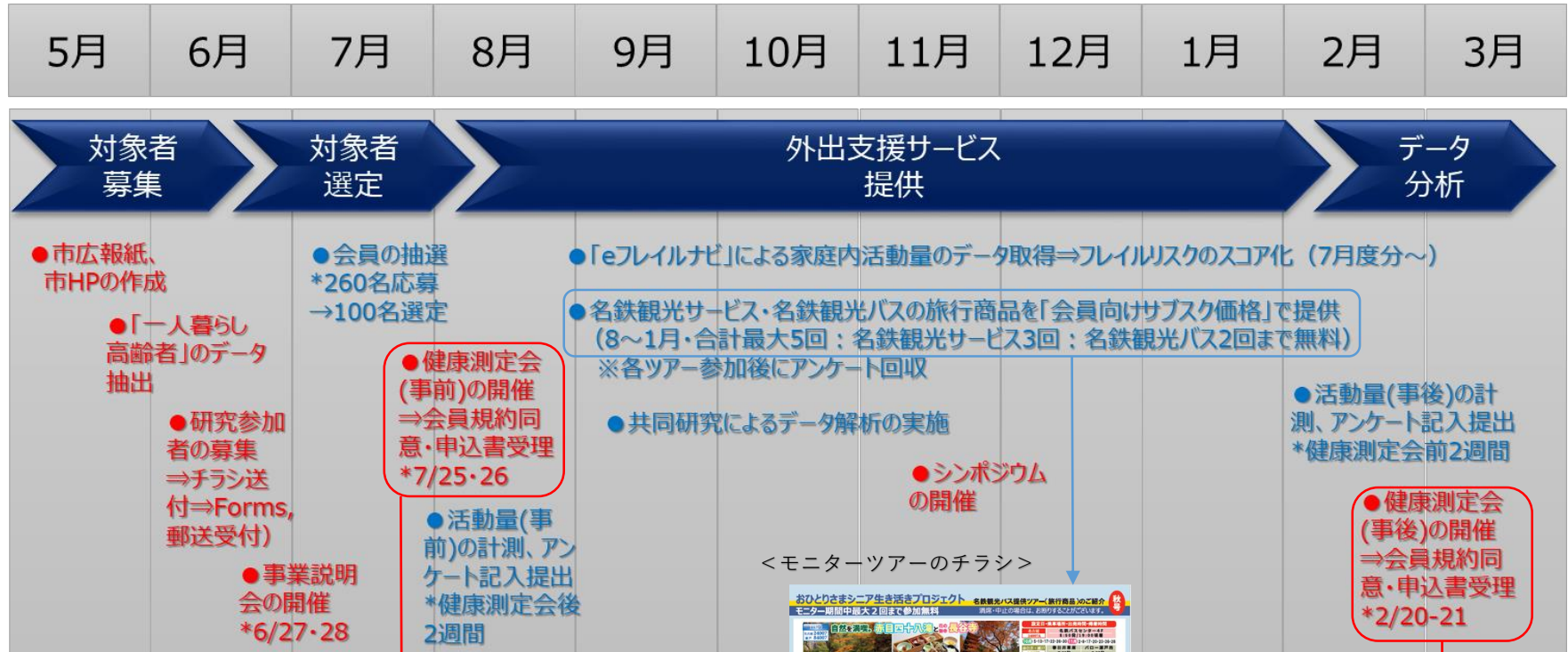


一人暮らし高齢者向け外出交流支援事業～おひとりさまシニア生き生きプロジェクト～

24年度事業の実施概要

< 凡例 >

- 事業者実施事項
- 尾張旭市様ご協力事項



< 身体機能測定の様子 >



< モニターツアーのチラシ >



< インタビューの様子 >



24年度事業の成果と課題

▼成果（全体を通じた要点）

■名古屋大学との共同研究を通じた「旅行参加」に対する効果について

- ・社会的刺激や活動増加をもたらし、**Apathy（無気力）の予防・軽減に寄与の可能性**の示唆を得た
- ・旅行による新しい環境・体験が認知的・感情的な刺激を与え、**無気力感の低下につながる可能性**の示唆を得た
- ・3回以上の旅行がより強い効果を示すことから、**頻度が多いほどポジティブな影響が大きい可能性**の示唆を得た

■サービスの社会実装に向けて（会員へのアンケート結果を受けて）

- ・ツアー参加期間の初期段階より、参加者が旅程管理をしなくてもよい“バスツアー”に多くの予約が入った
- ・期間終了時点でのアンケートでは、「**有料：会費を支払っても参加したい**」という方は**全体の40%**となり、現段階で未定の35%を含めれば75%は何等かの対価を頂戴できる候補となり、社会実装に向けて可能性を示唆するものとなった

■その他（会員の継続とデータ活用について）

尾張旭市様のご協力により、独居高齢者1620名に案内⇒260名応募⇒100名当選⇒**98名を会員化**
「eフレイルナビ」の導入および「測定会」実施により、**サービス参加実績およびフレイルリスクをデータ化**
→上記データの更なる蓄積と分析を進め、26年度以降のデータ連携基盤への連携素材として活用していく

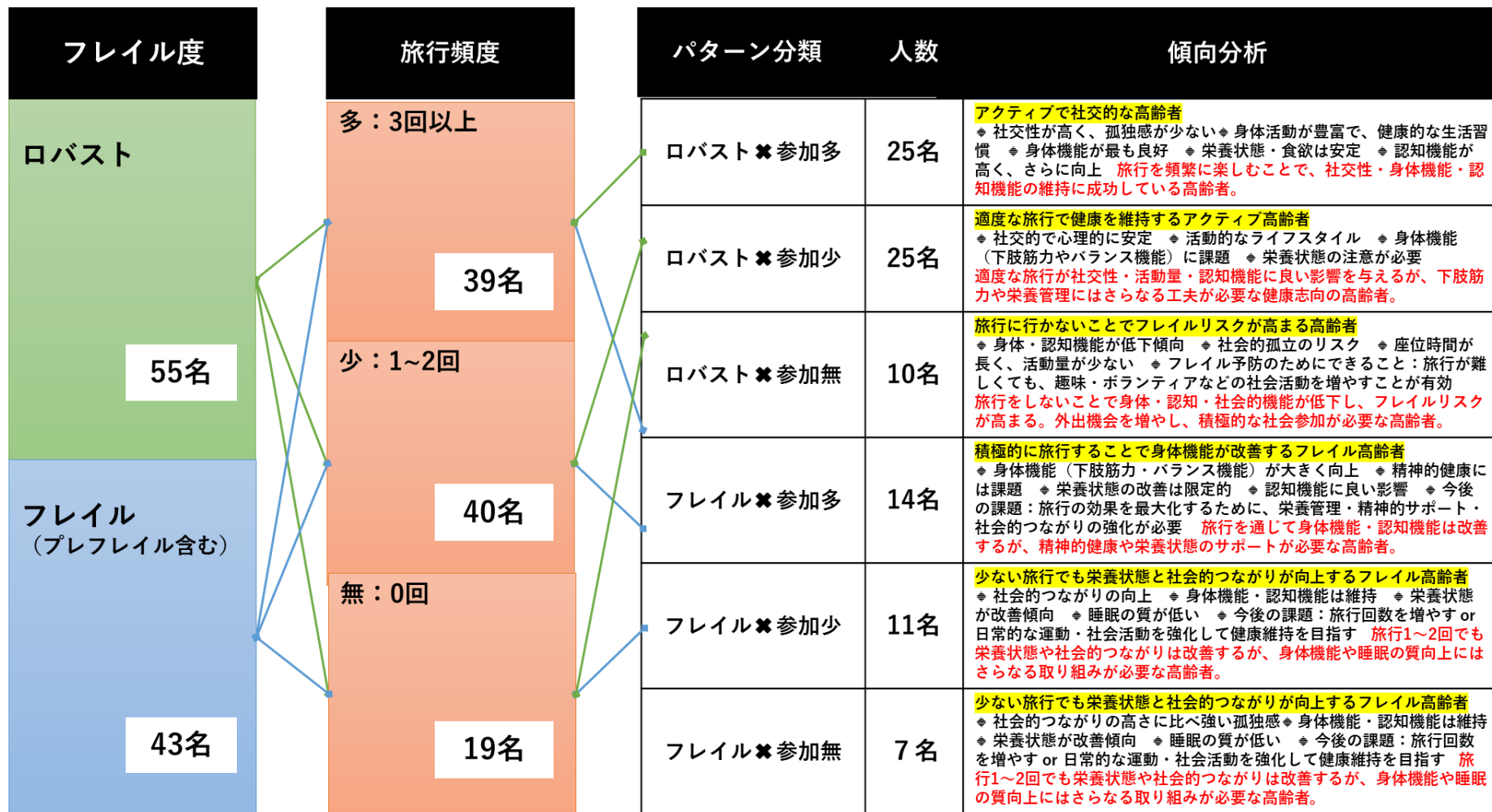
▼課題（全体を通じた要点）

- ✓ 年数回の「旅行」（異日常）⇔「フレイル予防」の間に、**相関性の証明が可能かは、更なる医学的検証が必要**
- ✓ 社会実装に向けて「有償化」をすることで、**持続可能なビジネスモデルを描けるかどうかの検証が必要**
- ✓ 24年度の提供サービスは既成品であり、外出×電力の**データ連携による新たな付加価値創造も要検討**
- ✓ 「身体的には健康」だが「強い孤独感を抱える」方が多く確認されたため、**社会的フレイル対応策**についても要検討

一人暮らし高齢者向け外出交流支援事業～おひとりさまシニア生き生きプロジェクト～

24年度事業の効果計測結果

(24年度モニター会員の傾向値)



(対象者計:98名)

(対象者計:92名)

一人暮らし高齢者向け外出交流支援事業～おひとりさまシニア生き生きプロジェクト～

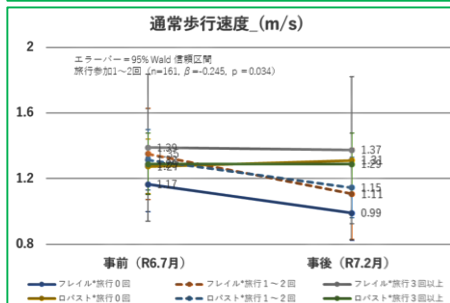
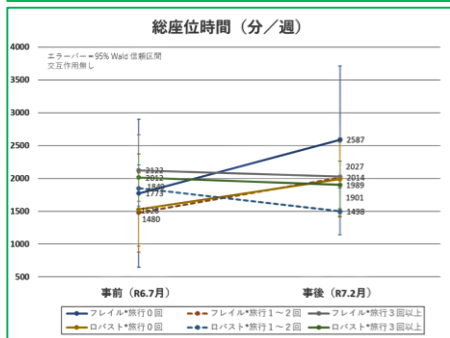
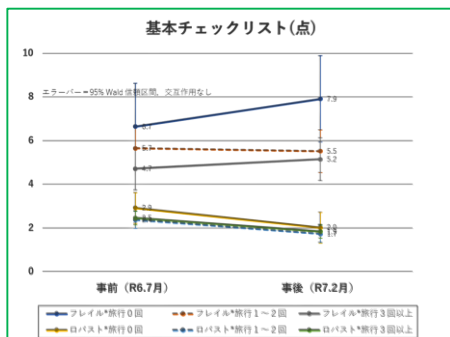
24年度事業の効果計測結果

(24年度モニター会員の傾向値)

■ロバスト（健康）の方へのアプローチ方針

・「旅行参加」により、健康状態の維持にどのような効果があったか？

⇒旅行参加頻度の影響として、旅行参加3回以上の群では、旅行参加なし群に比べて「基本チェックリスト」スコアが低い（良好な生活機能を維持している）傾向があるが、今後も検証が必要



■フレイル・プレフレイルの方へのアプローチ方針

・「旅行参加」により、健康状態の改善にどのような効果があったか？

⇒旅行参加頻度の影響として、旅行参加3回以上の群では「Apathy」無気力が最も減少、旅行参加なし群ではApathy得点が増加しており、旅行がApathy（無気力）軽減に有効である可能性が示唆される

